



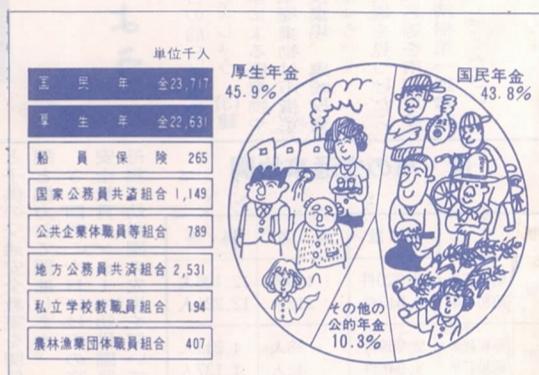
私たちの生活を守る  
國民年金二四八

## 国民年金ができるわけ

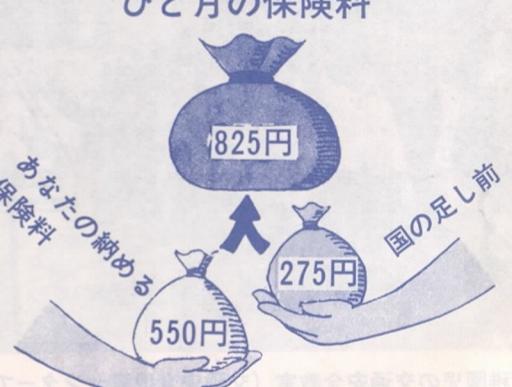
日本の年金制度は明治初年にできた軍人、官吏や鉄道、郵便などの官庁現業員のための恩給制度から始まって地方吏員の共済組合、また大正、昭和にかけてできた民間労働者のための船員がいないかまたは一人か二人というような第一次産業従事者が商工業全体の九十九%をしめています。またこれらの自営業者と家族従業者などを合

人々のための年金制度はまったくありませんでした。そこで昭和三十四年国会に提出、成立したのが「国民年金法」です。これにより昭和三十六年四月から保険料の徴収が始まっています。日本国民で二十歳以上六十歳未満の人すべてが必ず何らかの年金に入加入していることになり、「国民皆年金」制の時代がきたのです。

## 各種年金の被保険者数 (または組合員数)



## 保険料の $\frac{1}{2}$ を国が負担



国民年金に加入すれば  
八つの給付が受けられます

種類	うけらるる条件	年金額はこうなる
老齢年金	25年以上かけ金をした人が65歳になったとき。 この25年の期間は年齢に応じて24年から10年まで短縮される。なお所得比例に加入して、普通のかけ金のほかに月350円かけた場合にはその期間に応じて加算年金がつく。	320円×かけ金の月数 (25年の人) 96,000円 (40年の人) 153,600円 所得比例に加入したばあいの加算180円×かけ金の月数 (25年の人) 54,000円 (40年の人) 86,400円
通算老齢年金	他の公的年金の加入期間と国民年金のかけ金をした期間を合わせて25年以上ある人が65歳になったとき。	老齢年金と同じ
障害年金	①かけ金をひき続き1年以上かけている人 ②もしかけ金を免除された人は、3年以上の加入期間が、免除期間とかけ金期間でうめられている人 ③かけ金を5年以上かけ滞納期間が3分の1以下である人 ①、②、③のどれかひとつにあてはまる人が、重いけがや病気のために心身が不自由になったとき	国民年金法1級の障害の場合 132,000円 国民年金法2級の障害の場合 105,600円
母子年金	障害年金の①、②、③のどれかひとつにあてはまる妻が夫を失い、18歳未満の子と一緒にいるとき。その子が一定以上の心身障害があるときは20歳になるまでに期間がのびる	100,800円 2人目の子から1人につき4,800円加算
準母子年金	障害年金の①、②、③のどれかひとつにあてはまる女の人が、夫や息子を失い18歳未満の孫や弟妹と一緒にいるとき。孫や弟妹が一定以上の心身障害があるときは、20歳になるまで	母子年金と同じ
遺児年金	障害年金の①、②、③のどれかひとつにあてはまる父や母が死亡し、18歳未満の子が残されたとき。その子が一定以上の心身障害があるときは20歳になるまで	100,800円 子が2人以上あるときは、2人目の子から1人につき4,800円加算し、子の人数で割った金額となる
寡婦年金	老齢年金をうける資格のある夫が年金をうけずに死亡したとき	老齢年金の半額 60歳～64歳の間支給
死亡一時金	3年以上かけ金をした人が死亡したとき遺族に支給する	かけ金をした年数に応じ 10,000円～52,000円 (所得比例加入の場合は5,000円～26,000円加算)



